

美術史の研究で 貴重な文化遺産を 後世に残す

16世紀後半から17世紀にかけて、オスマントルコの脅威が強くエルサレムに巡礼に行けないキリスト教信者が、北西イタリアに築いた代用の巡礼地“サクロ・モンテ”。平成15年に世界遺産に登録されたこの宗教施設群に魅了され、日本の第一線に立ち美術史研究を行っているのが、今回ご紹介する関根教授だ。



芸術学部
美術学科
関根研究室
せきね ひろこ
関根 浩子 教授



約20年かけて1テーマを探究。 日本の第一線に立つ

平成29年10月、花王芸術・科学財団から助成金が下り、サクロ・モンテに関する著書を出版した関根教授。「何度も現地に足を運び、文献を読みあさり、約20年かけて外観・景観についてまとめることができました」と振り返る通り、道筋を立て可能な限り実証していく作業は時間も根気も必要だ。そして息つく暇もなく、対象は壁画などの堂内装飾に移り研究は続いていく。



イタリア・ヴァラッロのサクロ・モンテ彩色木彫調査

制作と異なるアプローチで 美術に関わるおもしろさ

「調査・研究を通して文化財を歴史上に正しく位置づけ、価値を正統に評価する作業は、かけがえのない文化遺産を守り後世に伝えることに通じる」と語る関根教授。その熱意は生徒にも影響を与えていて、専門性を身に付け教職や学芸員の資格を取得する学生が増えている。また、数年前から「日本における代用巡礼地の調査」にも着手。新たな研究発表に期待が高まる。



「地域文化特論」の授業風景(神社の装飾彫刻調査)

▶関根研究室メンバー

- 左から
2年生 福井さん(長崎県/長崎日本大学高校出身)
1年生 池田さん(熊本県/岱志高校出身)
3年生 呼子さん(宮崎県/日向高校出身)
4年生 藤井さん(熊本県/熊本北高校出身)
3年生 金田さん(熊本県/東稜高校出身)
2年生 水落さん(熊本県/第一高校出身)

